

岩泉町と当市の環境連携交流事業も3年目です。

6つのエリアが合併してできた岩泉町は昨年60周年を迎えたとのこと、昭島市も平成26年（2014年）に市制60周年を迎えましたので、お互いに“おいしい水”だけではない共通の親しみを憶えます。

昨年、市内の図書館で見つけた大変よく編集されたパンフレット「Enjoy岩泉」も再度目を通して参加しました。今回の事業は昨年度と季節が少しずれ10月上旬の開催でしたが、いろいろな新発見もあって更に深い感動や知識の吸収が出来ました。

まず、台風10号で壊滅的な被害を受けた龍泉洞の復興が確認でき、折から秋の龍泉洞まつりでしたので洞内に詳しい専門家2名にガイドして頂きわかりやすい説明を受けられたことです。洞内には5種類の蝙蝠が生息していることは以前にも見聞きしていましたが、説明によると生物学的な生態系の営みがある

ことが確認されているようです。

また、もちもち感が特長のヨーグルトの再発売日とも重なり、帰りには参加者一同に伊達勝身町長様からヨーグルトのプレゼントがありサプライズのうれしさだけでなく恐縮しています。

安家エリアにも足を延ばすことができ、小本川上流の氾濫による爪痕が1年強経ってもまだまだ残り、流木や倒れかかった家屋内には乾いた土砂の堆積を見るにつけ心が痛みました。

東京23区と横浜市を合わせた広さの本州で一番広い岩泉町ですが93%が山林です。東北大震災の津波や台風10号の小本川の氾濫による水害がなければ、海の幸、山の幸にも恵まれたのどこかでとても良いところですよ。

宇霊羅山にかかる神秘的な朝霧風景もホテルの部屋から見る事が出来ました。「うれいら」とはアイヌ語で“霧がかかる峰”の意味だそうです。

そこで一句、“宇霊羅にかかる朝霧アイヌ史  
が”

また、バス内ではガイドさんより参加者の  
皆様には、是非、50万円の買い物を…との  
お話がありましたが、岩泉に行くことが復興  
支援になることを肝に銘じ、今後も周囲の人  
達にも岩泉町のことをいろいろと紹介してい  
きたいです。

この事業にご尽力いただいた関係者の皆様  
にもお礼を申し上げます。

「ありがとうございました。」